

## 令和7年度第1回白井市廃棄物減量等推進審議会

### <議事概要>

日 時：令和7年12月23日（火） 午後2時00分から午後3時30分まで

場 所：白井市役所本庁舎 2階 災害対策室2・3

出席委員：10名

鬼沢良子 会長、山谷修作 副会長、梶山正信 委員、山本伴次 委員、佐久間仁宣 委員、  
生田目千鶴子 委員、井川芳枝 委員、吉村正之 委員、久本牧江 委員、岡村隆 委員

欠席委員：3名 津霸浩一 委員、水谷義一 委員、田中絵里 委員

傍聴者：1名

#### 1 開会

#### 2 会長あいさつ

- 本年度第一回の開催となり、今回は計画してきたことの報告となるので、忌憚のない御意見を  
お願いします。

#### 3 議事

##### 【会長】

- 出席委員は委員13名中、10名であり、白井市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例施行  
規則第2条第5項の規定による会議開催の条件（過半数の出席）を満たしているため、ただいま  
から会議を開催します。
- 本会議は、白井市審議会等の会議の公開に関する指針により原則公開となるのでよろしくお願  
いいたします。
- 本日の議事については、円滑な進行に御協力いただき、ぜひ忌憚のない御意見をいただきたい  
と思いますのでよろしくお願いいたします。

##### (1) 報告1 ごみ減量化・資源化基本方針（行動マニュアル）の効果の確認について

##### 【会長】

- ・ (1) ごみ減量化・資源化基本方針（行動マニュアル）の効果の確認について、事務局から説  
明をお願いいたします。

(事務局説明)

##### 【会長】

- ・ ただいま説明がありました。家庭系ごみは順調に減っている一方で事業系ごみは増加している  
ので、これについて知恵を絞っていく必要があるということかと思えます。  
では、御意見、御質問がありましたらお願いいたします。

【委員】

- リユース推進というところで、ジモティーの利用促進という話がありましたが、どのようにしているのでしょうか。

【事務局】

- ジモティーの利用促進は、説明の中で申し上げたとおり令和7年4月からはじめた取り組みですが、市ホームページにジモティーへのリンクを掲載しお知らせをするとともに、講座などでお話しする機会がある場合はその中でも説明しています。  
そのような方法で利用促進を図っています。

【委員】

- ジモティーにつなげるだけで、市がそこに関わるというわけではないということですね。

【事務局】

- ジモティーを通して市民同士がやり取りする形となるので、市は関わらずに、利用促進のみということになります。

【久本委員】

- 市民同士ということは、「白井ジモティー」のようなものがあるということですか。

【事務局】

- ジモティーにはエリアを選ぶ機能があるので市外の方も白井市の情報を見ることができます。また、民間のサービスでもあるため従来から白井市の方も利用できたので、すでに利用されてる方もいらっしゃると思います。しかし、更なるリユース促進のため市としても協定を締結し、ジモティーの利用促進を図っているところです。

【会長】

- ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】

- 事業系ごみはここ3年間は上昇傾向という説明でした。家庭系ごみでは製品プラスチックの資源化の取組が進んでいますが、事業系の廃プラスチックは産業廃棄物となり、事業系一般廃棄物としては出せないことになります。

そのようなことを踏まえて、事業者への啓発等はどのように行っているのでしょうか。

【事務局】

- プラスチックに限ったものではありませんが、一定以上の規模の事業者や、大規模小売店舗など、一定の要件に該当する事業者には、毎年、前年の廃棄物の排出量の実績や当年度の排出量の見込み、

廃棄物減量の取組を記載していただく「事業系一般廃棄物の減量及び適正処理に関する計画書・実績報告書」を提出していただいておりますので、これをきっかけに減量の意識付けをしています。

また、該当しないような小規模な事業者向けには、事業系ごみの廃棄方法と減量のアイデアを掲載した冊子を作成しています。

【会長】

- ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【委員】

•ジモティーなどは粗大ごみ処理料が掛からずに捨てられるが、利用者同士が対面することを嫌がり利用しない人もいます。船橋市はジモティーの店舗のようなものを構えているので、そのような場所に不用品を集約し、必要な人がそこから持っていくようなやり方も有効だと思います。

【会長】

•●●委員が仰ったものはジモティーのスポットというもので、場所を構えて実施している自治体がいくつもあります。不要になったものを持ち込んで、無料で譲ったり有料で販売できるほかに、仰るとおり顔を合わさずにやりとりできるメリットがあります。現在、白井市が実施しているのは繋ぐだけなので、なるべく顔を合わせないでやり取りできる場をつくるということもリユース促進のためには検討の余地があると思います。新たに場所を作らなくてもいいと思うので、使っていない場所で実施するなど一つの方法かと思います。

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

•2ページの家庭系ごみの排出原単位の推移については減少しているので、このまま続けていただきたいと思いますが、一方で6ページの食品ロスの割合は増えていて、相反するデータとなっています。全体的には減ってて、部分的には増えているというのはあり得ないことではないですが、その原因を分析しているか、分析している場合は対策をどのように考えているかを伺いたいの一点目です。

もう一点は質問になりますが、10ページの廃食油のリサイクルについて、インクの原料として再利用する事業者と契約しているということでしたが、もしほかの用途、例えばバイオエネルギーなどだとしても、高く買い取ってもらえる事業者ならそちらに変更することはあり得るのか、再利用の方針などがあるのかについてお伺いできればと思います。

【事務局】

•まず一点目の食品ロスの割合が増加した原因については、申し訳ありませんがはっきりしたことはわかっておりません。2ページでお示した家庭系ごみの排出原単位の推移は、印西クリーンセンターに搬入された家庭ごみすべてから算出したものですが、食品ロスの割合につきましては組成分析によるサンプリングとなっており、ベースとなる部分が違いますので、サンプルとして選んだ

ものがたまたま食品ロスが多かった可能性も考えられるとは思いますが。そのため、はっきりとした原因はわかっていないものの、傾向としてはこのように推移していると示しているものになります。また、市の対策としては食品ロス対策強化月間として広報誌で食材管理や「もったいない」の啓発や、野菜の皮や葉を余さず使ってもらうレシピを紹介するなど、食品ロスを減らす取り組みをしています。

二点目の廃食油の再資源化については、あくまで再資源化を目的としていますので、インクに限らず再資源化できる事業者の中から、一番高い値段で買い取っていただける事業者と協定を締結するという事になっています。

#### 【委員】

・対象が違うということで比較できないということだと思いますが、せっかくこのようなデータがあるので、令和4年度から比べると4倍近くなっている状況ですので、このままではまずいという考えで、それを踏まえて対策を強化していく認識を持っていただけたほうがいいんじゃないかと思います。

何が原因かははっきり分析できなくてもこのようなデータが出ているので、もう一段アクセルを踏み込むというか、更なる対策を考えていただきたいと思います。

廃食油については、一番高く買い取ってくれる事業者と協定を締結しているということで、引き続き市の財政にも貢献するようなやり方で市民に説明できるようにしていただけた方がいいかと思います。

#### 【会長】

・ありがとうございました。非常に有用なご意見だと思います。私も手つかずの食品ロスが急激に増えているのは、サンプリングで全体を表すものではないとしても、急激に増えているのはまずいと思います。社会的には減らそうという動きが活発になっていますが、サンプルを取った地域の方の認識がもしかしたら薄いということかもしれません。11ページの講座は市内全体で実施したものだと思いますが、講座に参加する方は限られていると思いますので、必要な方とマッチしていない可能性があります。本当に届けたい人に食品ロス削減の情報が届いていないと思うので、その点でもう少し工夫が必要だと思います。

他にいかがでしょうか。

#### 【委員】

・家庭系ごみの排出原単位については以前から一日おにぎり一個分を減らしましょうということで進めてまいりました。そのうえでこの数字をみて、皆さん頑張っていらっしゃるなと思いました。食品ロスについては、ついうっかり忘れてしまったということがありますので、食品管理の講座などをしていただければいいかなと思います。

4ページの燃やすごみ袋内の資源物の内訳のところ、牛乳パックが1.64%と高い割合になっています。前回の会議で話があったかと思いますが、牛乳パックの回収率が3割程度ですので、ふるさとまつりなどのイベントで声掛けしていただいて、牛乳パック6枚でトイレットペーパーが1

ロールできることをお知らせしたり、牛乳パックを持ってきてくれたらトイレットペーパーと交換したりできたらいいと思います。そのような取り組みを何年か続けて、3Rをきっちりやっていけば、ごみの知識も身につけていきますので、市民の方の気づきのきっかけとなるような講座などをしていただければと思います。

【会長】

•ありがとうございます。講座だけでなく、イベントなどに持ってきてもらう体験的なことを実施してはどうかというご意見でした。

他はいかがでしょうか。

【副会長】

•小型家電のほかにリチウムイオン電池の拠点回収も開始したことに関連して、印西クリーンセンターで火災が発生しましたが、原因はリチウムイオン電池に関係しているのでしょうか。

【事務局】

•印西地区環境整備事業組合のホームページでも公表されていますが、リチウムイオン電池が原因ということで報告を受けています。そういったことや、全国的にも同様の火災が発生していることによる国からの通知を受けて、拠点回収という形でリチウムイオン電池の拠点回収を開始しました。

【副会長】

•リチウムイオン電池は協会の協力店舗で回収することが基本ですが、外国製の製品など回収できないものもあります。また、東京23区では回収拠点が少ない状況であり、また、拠点回収は市民の利便性が高い場所にあることが望ましいと思いますが、白井市で拠点回収を実施している場所は何か所あり、どのようなところに設置しているのでしょうか。

【事務局】

•リチウムイオン電池の拠点回収は廃食用油などと同じところで実施しており、正確な数は手元に資料がないためお答えできませんが、10か所以上あります。具体的には市役所や各センターで実施しています。場所については、全国的にリチウムイオン電池による火災が発生しているため人の目があるところ、市の施設であるため設置の調整が容易であることからセンターにおいていただいています。なお、回収容器には金属製で燃えにくいペール缶や密封できるふたを使用しており、安全性に配慮しています。

【会長】

•クリーンセンターが火災になってしまうとごみの処理がストップするだけでなく、修繕に多額の費用を要し、それは税金で賄われています。また、製品プラスチックの収集も始まりましたが、製品プラスチックだと思ってリチウムイオン電池を使用しているものを捨ててしまう事例も出てくると思うので、このような事例は減少するどころか増える可能性があるため、重要な社会課題であ

ると思います。

ほかにご意見等がありますか。

【委員】

・地域の餅つき大会を予定してしまして、若い保護者にチラシを作っていたときにお椀とお箸を持ってきてもらうように書いてもらいましたが、高齢者の方からなぜプラスチックの使い捨ての食器を用意しないのかという意見がありました。世代によって使い捨てに対する意識の違いがかなり違うというのを感じましたが、使い捨ての食器を使う場合でも、洗ってプラスチックごみとして出そうと個人的には思いました。

【会長】

・使い捨てに慣れてしまっている年代の方たちは、特にイベントではリユースできるお箸やお椀よりは、もったいないという気持ちがありながらも便利なほうがいいという意見もあると思います。

広報も、同じような方法だと届く年代と届かない年代が変わらないままだと思います。

他はいかがでしょうか。

【委員】

・割り箸の使用について、お店で使い捨ての箸を使用しているところもありますが、マイ箸などを使用してもらうようにするとかなり廃棄が減ると思います。

【会長】

・店内のお箸は割り箸でなく洗ってリユースする箸を使用しているお店も増えてきているので、ごみを減らしていくという意味でもそういった取り組みが進んでいけばいいなと思います。

他にいかがでしょうか。

【委員】

・木更津市ではオーガニックフェスタというイベントで、リサイクル関連の方が、持ってきてもらったアルミ缶や牛乳パックに応じてトイレットペーパーを配るということを10年以上やっております。地元の方は毎年そのイベントにもっていけばトイレットペーパーがもらえるということがわかっているので、最初は根付くまで大変だったようですが、その後は少しでも持ってくるようになるので、やってみるのはいいのではないかと思います。

・4ページの燃やすごみ袋内の燃やすごみの内訳で、可燃紙類が令和3年から割合が増えています。これはコロナ禍の影響でティッシュペーパーなどが増えたのだと思いますが、それより前の年には、雑紙だともいますが、燃えるゴミとして捨てられているものもあると思うので、広報の方法を変えたりなど工夫して対象を広げると分別の意識も高まると思います。

・全般的なことについての意見ですが、グラフは傾向や推移などを把握できるものでありますが、どうしてそうなったのかということ考察して議論しないと、こうなりましたという結果だけだと何も変わらないと思います。

・また、生ごみ処理容器等の購入費の助成を行っていますが、現状としては食品ロス、つまり食品残渣が増えています。

一軒家に住んでいる方は庭でコンポスターを使って処理できるので、おそらく食品ロスは集合住宅のお住まいの方のほうが多いのではないかと思います。そうであれば、一世帯ずつに助成するよりは、一件当たりの助成額が多くなるとしても集合住宅用の大型の生ごみ処理容器等に対して助成することが有効かもしれないなど、どういったことが一番いいのかということをご考察していく必要があると思います。

・11ページの講座の実績について、講座の参加者数を把握することも大事だとは思いますがこのような講座に参加する方というのは、そもそもごみに対する意識が高い方だと思います。

組成分析の結果で燃やすごみ袋の内訳で資源ごみが約30%も入っていますが、意識が高い方はそのようなことはしないと思いますし、アプリのダウンロード数の推移について、知識が身につけて不要になったため減ったのではないかとご考察もありましたが、そうであれば資源ごみ混入の割合も減っているはずではないかと思います。

いろいろな数値が実績として出ているので、クロスさせてご考察することが必要ではないかと思えます。

・施設見学会なども、例えば学校を対象に実施するなど小さいうちに意識付けを行っていけば、大人になるまでにはそれが当たり前になり長い目で見ると効果があると思うので、どうやって意識を変えていくかが重要になると思えます。

【会長】

・ありがとうございました。この後の議事の報告でも製品プラスチックの分別収集の開始について説明がありますが、それと関連する部分があると思います。

## (2) 報告2 製品プラスチック分別収集の開始について

【会長】

それでは、次の報告について、事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

【会長】

・ありがとうございました。始まって間もないためまだ1か月分しか実績が出ていませんが、公募委員の皆様はご自分の生活での変化や周りからの声などはあったでしょうか。

【委員】

・私は住んでいる住宅のごみ当番を担当しているので、今回の分別収集が始まり助かっています。いままでは資源物の袋にプラスチック製ハンガーが入っていると収集されないというようなことが多かったが、製品プラスチックの収集が始まったことで助かっています。

【会長】

- ありがとうございます。●●委員はいかがでしょうか。

【委員】

- うちの周りは高齢者が多いのであまり変わりません。子どもがいないので、もしかしたら製品プラスチック自体があまりないのかなと思います。

【会長】

- 情報が届いていそうですか。

【委員】

- 情報は届いていると思います。

【会長】

- そうしますと、年末の大掃除などでは製品プラスチックが出てくるかもしれませんね。  
●●委員はいかがでしょうか。

【委員】

- 私も製品プラスチックを捨てる機会は意外と少ないと思いましたが、分別収集が始まったことで安心して資源として捨てられるので、すごくいい取り組みだと思いました。

【会長】

- ありがとうございます。容器包装類は毎日といっていいほど捨てますが、製品プラスチックは長期的に使用するものですし、子どもがいるとおもちゃなどがありますが、大人だけだと頻繁に出るものではないです。しかし、今後製品プラスチックをきちんと分別できていない市民の方にきちんと分別していただくのが大切になってくると思います。

ほかになにかご意見はございますか。

【委員】

- 製品プラスチックについては分別収集が始まり資源化の取り組みが進みましたが、一定以上の大きさがあるなどで粗大ごみとして捨てられたものに含まれるプラスチックについては再資源化されるのでしょうか。

【事務局】

- 粗大ごみについては、現在はクリーンセンターの火災により県外で処理していますが、通常時はクリーンセンター内で破碎し素材ごとに選別して再資源化しています。

【会長】

- ありがとうございます。  
ほかになにかございますでしょうか。

【委員】

• 今説明があったような、粗大ごみとして捨てられたものも含めて再利用していることを市民にアピールしていく必要があると思います。この法律が施行された理由はカーボンニュートラルのためで、それに対して CO<sub>2</sub> を減らすことが有用であるということなので、ただプラスチックを再利用できるようになりましたというだけでなく、地球環境のためにやるということをはっきりとわかるようにしたほうが良いと思います。

また、先ほどのリチウムイオン電池の関係で、分別収集が始まるとそういうものがおもちゃと一緒に入ってくる可能性がますます増えてくると思います。そうするとクリーンセンターの火災につながる可能性が高いので、リスクマネジメントとして回収体制、分別体制については丁寧に周知されたほうが良いのではないかと思います。ただプラスチック製のおもちゃはこちらに入れてくださいというだけでなく、バッテリーは取り外してくださいとかこちらに入れてくださいとか、きめ細やかな分別の周知をしたほうが、そのようなリスクを下げるのに必要だと思いますので、検討していただいたほうが良いかと思います。

【会長】

- 貴重なご意見だと思います。カーボンニュートラルのためにプラスチックの資源化が始まっているのですが、カーボンニュートラルは多くの人にとって自分にとってすぐに関係があるとは思えないのだと思います。カーボンニュートラルが気候変動や異常気象まで関係しているということを知っていただくことで行動につながると思いますので、広報がすごく重要だと思います。  
貴重なご意見や分析が出たと思いますので今後に活かしていただきたいと思います。

### (3) その他

【会長】

- では、3 つ目の議事のその他について、事務局からお願いします。

【事務局】

- 事務局から一点報告させていただきます。

昨年の会議で、食品残渣を活用したバイオマスガス発電施設を建設する計画が進んでいることを報告させていただきましたが、この施設について、事業者から計画が中止となったとの報告をいただきました。

【会長】

- ありがとうございます。それでは、全体を通じてほかに何かある方がいらっしゃいますか。

【委員】

・些細なことなのですが、たしか前回の会議で燃やすごみのうち厨芥類は水分の割合が多いので水切りが有効ということだったと思います。なので広報に水切りの方法などごみの特集を掲載すれば、意識がある方はやると思うので、そのような方法も考えていただけるといいのではないかと思います。

【事務局】

・水切りについては広報に掲載しているほか、講座の際にお話などをしていきます。

しかし、特集として目立つ形で打ち出すことはしていないので、広報担当課と調整する必要があるものの、リチウムイオン電池の廃棄方法などと併せて特集として目立つよう掲載することは有効だと思います。

【会長】

・ありがとうございます。皆さん貴重なご意見をいただきありがとうございました。

では、今回の議事はこれで終了となりますので進行を事務局にお返しします。

#### 4 閉会

【事務局】

・以上で、令和 7 年度第 1 回白井市廃棄物減量等推進審議会を閉会いたします。ご協力いただきありがとうございました。